

■ 歴史の肖像	堂崎教会	1
■ 海道探訪 「五島」		3
■ とれたて!!旬の長崎 長崎たちうお		11
■ ここが楽園 ながさき田舎暮らし		15

■ 皇太子殿下ご来県		17
■ 情報ひろば	6月〜7月の話題	18
■ 達人たちの挑戦	日本ビソー株式会社	19
■ ながさき「近代」発見記	避暑地 雲仙	21

■ 長崎県美術館・長崎歴史文化博物館の紹介		21
■ ながさき美味遊学	ハトシ(長崎市)	22

表紙写真 © 高浜海水浴場(五島市)

# 堂崎教会

歴史の肖像 文化財に見る「長崎」②

【明治時代】県指定有形文化財 所 在／五島市奥浦町

所有者／カトリック長崎大司教区

明治六年(一八七三年)、キリシタン禁制の高札が撤廃されると、フランス人神父らは巡回宣教師として次々に五島の島々などを訪れた。明治十四年、マルマン神父は、弾圧後の下五島における宣教活動の拠点として、この地に仮聖堂を建設。明治四十一年、後任のペルー神父のもと、五島の大工棟梁、野原与吉の施工により現在のゴシック風様式の教会堂が完成した。この時、後の教会建築の第一人者、鉄川与助も建設工事に参加したといわれている。

波静かな岬の先端に建つ煉瓦造りの建物は、どっしりとした風格があり、内部のリブ・ヴォールト天井(コウモリ天井)やステンドグラスが厳肅な空間をつくり出している。かつては、鐘の代わりにホラ貝でミサを知らせ、それを聞いた信者たちは船でここへと集まってきたという。

現在は資料館として、五島のキリスト教の歴史を今に伝える堂崎教会。海辺の教会は、五島キリシタン復活の証として今も美しい佇まいを見せている。

入江に建つ赤煉瓦の聖堂  
それは五島キリシタン復活の証



内部は木造。リブ・ヴォールト天井(コウモリ天井)が美しい



色鮮やかなステンドグラスが荘厳な空間を作り出している



天主堂前の広場にあるマルマン神父(左)とペルー神父(右)の像



波静かな入江の際に建つ堂崎教会